

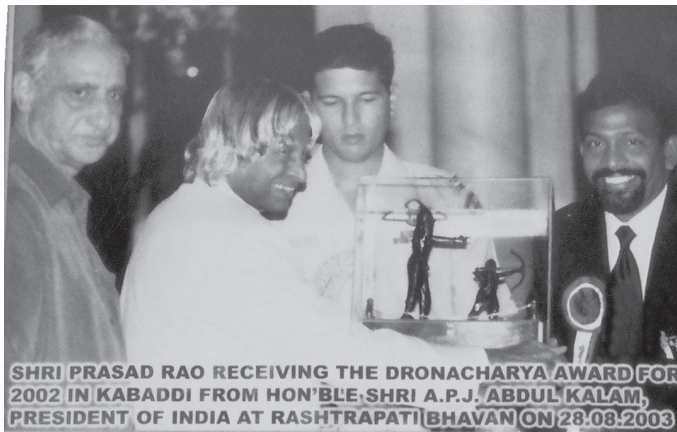
ニュースポーツとしてのビーチカバディ

金子 茂

はじめに

筆者は、平成19年度(2007)の二松学舎大学より「長期海外特別研究員」としての貴重な時間を賜り4月1日から7月25日まで、インド西部のグジャラート州・Gujaratの州都であるガンディナガル・Gandhinagarに滞在した。赴いたグジャラート州は、独立の父といわれるマハトマ・ガンディーの生誕地である。州全体の人口は、5059万ほどである。州都のガンディナガルは、1970年にグジャラート州の中心都市アーマダバード・Ahmadabadに代わり州都になった所である。ガンディナガルは、アーマダバードから車で北東へ30km程のところに位置している。ガンディナガルは、マハトマ・ガンディーに因んで名づけられた「ガンディーの町」という意味である。現在のガンディナガルは、人口20万ほどの都市である。^{1,2)}このガンディナガルにあるインド西地区の国立スポーツセンター・Sports Authority of India (SAI)^{3,4,5)}を拠点にして約4か月滞在することになった。滞在の目的はカバディというスポーツ競技の研究と見聞と言うことが第一であるが、長期滞在でインドの日常生活なども十分味わうことが出来て大変有意義な日々を送ることが出来た。暑い環境下において、健康に恵まれて過ごすことができたことは、誠に幸いなことであった。

長期に滞在した家は、インドのカバディ指導の第一人者である友人のMr. Prasad Rao宅であった。ラオ氏のご好意でホームステイ生活ができたことは、大変ありがたいことだったと感謝をしている。ラオ氏は、インドカバディのチーフナショナルコーチであり、アジア連盟の技術部門の長でもある。ラオ氏は2003年8月28日にはインドのスポーツ指導者の中で最高の栄誉とされるドロナチャルヤ・アワード・Doronacharuya Award⁶⁾のスポーツ賞を受賞し、当時のアブドウル・カーラム・Abdul Kalam大統領(2002-2007年)からスポーツ賞の式典で賞を頂いている。2003年9月23日(火)付けのグジャラート州アーマダバードのTimes of IndiaのPeter Pears記者は、“This award is a tribute to Gujarat”このドロナチャルヤ賞はグジャラートへの贈り物と題して、写真入でラオ氏のこれまでの業績などを踏まえて詳細に書いて祝福している⁷⁾。この賞はインドのカバディ関係の指導者でラオ氏が初めての受賞者であることも書き添えておかねばなるまい。ラオ氏はインド国立スポーツセンターのカバディの主任専門研究員ならびに、センターの管理職も兼務している(写真1)。



SHRI PRASAD RAO RECEIVING THE DRONACHARYA AWARD FOR 2002 IN KABADDI FROM HON'BLE. SHRI A.P.J. ABDUL KALAM, PRESIDENT OF INDIA AT RASHTRAPATI BHAVAN ON 28.08.2003

写真1 アブドウル・カーラム大統領から
ドロナチャルヤ賞を受けるラオ氏(右端)

ラオ氏の勤務する SAI という国立スポーツセンターまでは、ラオ氏の自宅から歩いて 10 分、自転車で 3 分ほどの所であり、大変都合のよい環境であった。筆者は朝の 6 時 30 分から 8 時までの朝の練習、夕方 5 時半から 7 時 30 分まで、カバディの練習生の練習にも参加し、つぶさにカバディを見聞した。実際には無理をしない程度に毎日運動も行った (写真 2、3、4)。



写真2 練習を終えてラオ氏、コーチ、筆者とガバディ選手



写真3 女子ガバディ選手の早朝練習風景



写真4 男子ガバディ選手の早朝練習風景

朝はインド特有のチャイ・お茶を飲み、スポーツセンターのグラウンドにでかけることになった。チャイ・Chaiはミルクで茶葉を煮込み（水も少々加えることもある）、たっぷりの砂糖を入れた大変美味しいものである。チャイは、いつも奥さんのマイトリーが作ってくれたが、時にはラオ氏自ら作ってくれる場合もあった。6時過ぎにチャイを飲んでグラウンドへラオ氏と車で直行するのだが、水泳コーチから中古の自転車（マウンテンバイク）を借り受けてからは、近場へ行く交通手段としては、もっぱら自転車が筆者の行動の担い手となった。

朝の練習後は、SAIでの各種目のコーチら10人ほどが陸上競技場のニームの大木の下に集まり車座になって椅子に座り、チャイを飲みながら8時過ぎから30分ほどであるが、その日の打ち合わせや情報交換をするのが慣わしであった。筆者は勝手にこのミーティングを「チャイミーティング」と名づけた（写真5）。ミーティングが終了してから、ラオ宅に戻り、朝食をとるので朝食時間は9時近くになった。



写真5 早朝練習後のコーチ達のチャイ・ミーティング

朝食後は、ラオ氏の車に便乗するか、借り受けたマウンテンバイクでスポーツセンターに行くことになった。センターでは図書館で過ごすことが多かったが、よくラオ氏のオフィスや、他のオフィスなどにも出入りすることも出来た。暫く過ごし、昼食で家に帰るころになると、暑さも半端なものでなく、ラオ氏が1時過ぎに図書館に来てくれて一緒に車で帰ることもしばしばであった。昼食は1時30分過ぎから2時の間になった。昼食用の数種類のカレーは、奥さんのマイトリーが忙しい朝の時間に手早く作りテーブルに用意しておいてくれた。ラオ氏の家では、奥さんもスポーツセンターで秘書兼事務関係の仕事をしている。朝食後は勤務に急ぐという毎日であった。昼食は自宅に戻り、ラオ氏といつも2人で食べるということになった。昼食後は、自宅で過ごしたり、センターに出かけたり、また自転車で街を1時間ほど散策するということがよく行った。兎に角、2時過ぎの温度は35度cほどであるから、ラオ宅で浄化した水道水をペットボトルに入れて、ザックを背負い出かけたものである。ラオ夫妻からは、食あたりなどを起こしてはいけないという衛生や健康上の理由から、途中で物を買って食べることはしないように厳しく申し渡されていた。それでも二三度、道路際のニームの大木の下で人が群がる屋台のチャイを飲んだ。ミルクが入り甘いチャイは、疲れを癒すのには最適な飲み物であった。チャイ以外は、一人で食べたり飲んだりはしなかった。ただし、冷えたソフトドリンクやミネラルウォーターは時々購入した飲み物である。

夕食は、毎日のスポーツセンターでの午後5時過ぎから7時半位までの練習が終えてからであり、8時過ぎになることが多かった。ラオ夫妻はインド南部の州の出身である。南部の人々は、ライスがとくに好物であると聞いていたが、夫妻も大変ライスが好物であった。辛いライス好きの私は、お陰様で香料の効いた各種カレーを中心にした朝食、昼食、夕食を飽きることなく美味しく食べることになった。毎日カレー味であるが実にバラティに富んだ食事内容であった。

食事のことを書いたので、酒についても少し書いておこう。グジャラート州は、インドにおける唯一の禁酒州なので公に酒類を買うことも出来ないし、飲むことも出来ないという


ころであった。酒屋などは何処にもなく、日本とは大違いであった。したがって、酒やビールなどを店頭で見たことが無い。健康のために暫くは、アルコールを絶つことにしようと思いに決めた次第である。しかし、夕方の練習を終えて、自宅に戻り水シャワーを浴びた後、時々ラオ氏がウイスキーの炭酸割りを振舞まってくれた。いつも振舞まってくれるときは、決まってカーテンを閉めてこっそりと静かに飲むという状態であった。また、招待を受けた時など（男性のみであるが）、ウイスキーの炭酸割りをカーテン閉めて静かに飲むというものであった。^{8, 9)} 酒の後は、ディナーと言う事になるのだが、ここでも美味しい何種類かのカレーが中心であることは言うまでもないことである。私が美味しい、美味しいと食べるものだから、ラオ氏曰く「金子は、インドの食べ物を何でも食べ、“Very good”しかいわないと」何処の招待された席でも賛辞を頂き、皆に吹聴する始末であった。少年の頃からカレーが好物の者にとっては、腹八分目にするのに一苦勞であった。

ここでインド滞在中に、カバディ研究で訪問したことなどがインドの新聞に掲載されたので記したい。日本からカバディの研究に大学教授がグジャラート・ガンディナガルにカバディの研究にやってきたことが2007年4月8日(日)の地元のデビア・バスカル紙・Divya Bhaskar (グジラート・グジャラート州言語の新聞)と、2007年5月16日(水)のアマダバードの英字新聞、“The times of India”の英字新聞が“Japanese here to compile book on kabaddi”の見出しで、カバディ研究に訪れたことを写真入で報じてくれた(写真6)。その他の新聞報道では、2007年5月13日のムンバイのIndian Expressが東京の大学教授(金子茂)が、インド連盟大会にゲストとして招かれ、インドに4ヶ月のカバディ研究に来たことが写真入で報じられた。^{10, 11, 12, 13)}

Japanese here to compile book on kabaddi

Gandhinagar: For years kabaddi has remained in the courtyard of the Indians but with changing times, it has gradually started to attract an international audience - one from the land of the rising sun.

Shigeru Kaneko, director of the Japan Kabaddi Association (JKA), has flown down for a four-month trip to India to acquire some exposure of the game. He has been lodging with Dronacharya award winner E Prasad Rao, chief kabaddi coach, Sports Authority of India (SAI), Gandhinagar, so that he can learn something



Shigeru Kaneko (C) with the technical head of the Asian Amateur Kabaddi Federation, E Prasad Rao (L) at the SAI, Gandhinagar

about the Indian sport from one of the sport's authorities.

In the course of developing kabaddi in Japan, Kaneko told TOI that the game has already taken flight in his home country where girls are doing well but skills and technique need to be upgraded.

"We need to learn the advanced techniques of kabaddi and so I am spending four months in India. I will watch various matches, travel in different parts of the country to take down copious graphical notes on the game to take back to Japan and compile my book," said Kaneko.

A thorough learner of the

KABADDI STUDENT

“We need to learn the advanced techniques of kabaddi and so I am spending four months in India.”

Shigeru Kaneko | DR. JKA

ready acquainted with the game. But to catch up with India we need a long way to go," Kaneko admits.

Meanwhile, the technical head of the Asian Amateur Kabaddi Federation, E Prasad Rao whose book on the game, 'Modern Coaching in Kabaddi,' finds a place in the university syllabus of Japan, said that this was one step forward in popularising the 'dying' game.

"The Japanese women's team has done well in the past by coming close to beating India. This book will further promote kabaddi in the Asian nation," remarked Rao.

写真6 「ガバディルールと戦術—(ラオ著の筆者翻訳本)」を手にするラオ氏と筆者

次のことは、ドーピング・Doping 研修会についてである。2007年4月11日(水)~12日(木)に、ガンディナガル・インド国立スポーツセンター・Sports Authority of India (SAI) 主催のドーピング・Doping 研修会が開催された。筆者もこのドーピング研修会には、インド各地から来た40人程のスポーツ指導者らと参加した。2日間の研修は、アンチ・ドーピングのことで大変勉強になった。最終日には試験も行われて修了証明書も頂いた。そのセレモニー後の席では、感謝の言葉も述べる一人となった。週明けの4月16日(月)には、スポーツセンター玄関の掲示板に壇上で挨拶している写真が「Prof. Shigeru Kaneko of a university in Tokyo, who participated in the Dope control officers specimen sampling expressed his

deep appreciation of the efforts of SAI in organizing the course」(写真7)というコメント付きで掲示された。¹⁴⁾

前置きが長くなり恐縮至極であるが、インドの生活の一端もカバディ研究と連動しているので御寛恕いただきたい。今回のインドでの長期滞在では、とくに Beach Kabaddi・ビーチカバディについて見聞したことを踏まえて報告をしたい。ビーチカバディは、インドでも新しい種目であり、これから普及させようという種目である。筆者はビーチカバディという名前は聞いて知るものの実際に見たことがなかった。しかし、ラオ氏が私のためにガンディナガル・スポーツセンターのビーチカバディコートで、男子カバディの訓練生同士の練習試合を組んで見せてくれたのでビーチカバディの全体を理解することが出来た。

ビーチカバディに少し理解を深めた中で、大会に招待を受けたので大変喜ぶと同時に興味津々であった。招待されたのは、インド・ビハール州 (Bihar) で開催された第2回全インドビーチカバディ大会であった。大会が開催された所は、ブダガヤ (Buddha Gaya) という仏教の聖地であり、仏陀が悟りを開いたというマハーボディー寺院 (Mahabodhi Temple) があるところである。多くの日本人の僧侶、仏教徒や観光客も訪れる所である。寺院の裏手には仏陀が悟りを開いたという大きな菩提樹がある。マハーボディー寺院には、3度訪ねて見たが、記念に仏陀が悟りを開いたという菩提樹 (現在の菩提樹は、何代目かであるという) の落ち葉を20枚ほど拾い新聞紙に挟んで押し葉にして持ち帰った。

ビーチカバディはこの寺院の近くに6面ほど作られた特設コートで行われた。試合は6月3日から5日まで行われたが、日中の35～6度の暑さを避けて、午後6時からの試合開始であった。それでも気温は30度以上であり、筆者のように汗かきの者にとっては耐え難い暑さであることには違いなかったが、とりわけそのような環境の中でビーチカバディ大会に出場した選手達は、連日競技と同時に暑さとの戦いでもあったわけであり、さぞかし大変なことであったろうと述懐している。競技は、大変白熱した見応えのあるものであった。大会中には、試合開始前の両チーム選手の激励をする儀式などにも機会を頂き、貴重な体験することが出来た。この儀式では、ココナツを割り、線香を焚いて試合の無事を祈るのだが、暫し試合前の大観衆の喧騒の中で神妙な面持ちになった。

それでは、ニューススポーツとしてのビーチカバディとはどのようなものなのか、実際に見聞して得たその競技の特徴、ルール、更にビーチカバディに対する規則に照らしたQ & Aなどを取り上げて全容を明らかにしたい。さらに、2007年5月に仕上げられ、その後一部に修正と加筆が加えられたアジア・アマチュア・カバディ連盟のビーチカバディ最新規則 (筆者訳) を附録として掲載させて頂いた。

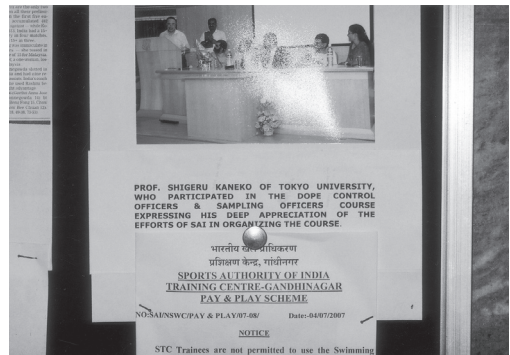


写真7 ドーピング研修会で挨拶する筆者(左端)

1. アジアにおけるビーチカバディの現状

インドにおいてもまだビーチカバディは、緒についたばかりの新しいカバディであり、これから普及発展をさせようという種目である。^{15, 16)} アジアの各国においてはインド以上にニュースポーツなのである。既存のカバディは1チームが12名、実際コートでプレーする選手は、7名であるが、ビーチカバディは1チーム6名で、コートに入りプレーする選手は4名である(写真8)。参加人数が少ないという特徴があり、国際試合などにも参加しやすいと言う事が言える。ビーチカバディを推進するラオ氏は、筆者との会話の中で再三に渡り1チーム6名であるから、大人数の既存のカバディ(1チーム12名、但し最近では費用や参加人数を考慮して1チーム10名とする場合が多い)よりも、国際大会などへの参加国が増えるだろうという大きな期待を寄せていたものである。^{17, 18, 19, 20)}



写真8 ナイトゲームで行われたビーチカバディ



写真9 ビーチカバディを観戦するアジア連盟会長夫妻と筆者

インドにおいて、ビーチカバディ大会が開催されたのはまだ2回目である。第1回全インドビーチカバディ大会は、2004年(平成16年)にアンドラプラデシュ州・Andharapuradeshのクルヌール・kurnoolで開催された。そして第2回の全インドビーチカバディ大会は、2007年(平成19年)6月3日から5日までインド・ビハール州のブダガヤで開催された。筆者はこの大会に日本人として初めて招待を受けてビーチカバディを見聞できた(写真9)。日本のカバディを推進する者として、

正式のビーチカバディを目の当たりにする最初の日本人であったことを自負すると同時に、インド国のカバディ関係各位のご厚情を賜ったことに心から深く感謝する次第である。

2007年6月3日付けのサンデー・ヒンダスタン・タイムズ、Sunday Hindustan Times, Patnaは、「インド国内ビーチカバディが始まる」の見出しで、アジア連盟の役員と同道して、筆者が国際観戦者として日本から開会式に臨んだことを紹介してくれている。²¹⁾ また、大会終了後にはビーチカバディを観戦した参加証明書も頂いた。²²⁾

インドで緒についたばかりのビーチカバディであり、当然のことながら日本においてはどのようなスタイルのカバディなのかのインフォメーションも少ないのが現状である。しかしながら、2007年9月2日に、日本カバディ協会、並びに山陰支部主催の第1回ビーチカバディが、鳥取県境港市佐斐神ビーチ(竹内ビーチ)で男子8チーム、女子3が参加して行われたことは、普及発点の観点からも大変に喜ばしいことである。日本で行われたビーチカバディ大会は、既存のカバディと同じく7対7の競技選手の人数と、特別ルールで開催された。何はともあれ日本でも大会を開催したことは同慶の至りである。

筆者はラオ氏の故郷であるアンドーラ・ブラデシュ州・Andhra Pradesh (AP) のヴィシヤカパトナム・Vishakahapathnam に招待された折に、ベンガル湾に面した砂浜には多くのビーチカバディコートやビーチバレーコートが点在していたのを目の当たりに出来た。ビーチカバディを行う人々の姿は見かけなかったが、多くの人々が砂浜で戯れていた。ただベンガル湾の波が大きく、泳ぐにはあまり適さないところであるという印象を強く持った。そのため、砂浜で戯れる人々が殆どであった。大きなうねりは、サーフィンなどの愛好者にとって魅力的な波だと感じたのだが、波乗りに興じる人は誰もいなかった。ラオ氏の言うにはスマトラ島沖地震 M9.3 (2004 年 12 月 26 日) で、津波の被害を受けた後、海岸の地形も変わり波が大きくなったという。確かに海岸には岩などが剥き出しになっている光景などを目の当たりにもした。滞在していた時の夕方、ラオ氏と海岸に散策に出たとき、海岸が大騒ぎになっているのに遭遇した。ラオ氏が聞いてみると岩場で事故があったのだと言う。波間に見え隠れする大小の岩場は、確かに一目で危険が一杯である事を如実に物語っていた。

アジア・アマチュア・カバディ連盟では、インドネシアのバリで開催される第 1 回アジアビーチゲーム・1st Beach Games (平成 20 年(2008)10 月 18 ~ 26 日) への参加をアジア各国に強い要請をしていたが、大会は予定通り開催され、26 日に閉会式した。このバリで開催されたビーチゲームの大会は、Olympic Council of Asia (OCA) ・アジアオリンピック評議会の下でアジアの 45 カ国が参加して開催された大会である。大会の狙いやコンセプトは、Beach Games という言葉に象徴されているように、輝ける太陽の下でのビーチや水辺そして海洋種目を行うということが大会の趣旨である。ビーチゲームで行われた 17 種目は、1. Beach Basketball 2. Beach Handball, 3. Beach Kabaddi, 4. Beach Pencaksilat, 5. Beach Sepatakray, 6. Beach Soccer, 7. Beach Volleyball, 8. Beach Waterpolo, 9. Beach Wrestling, 10. Body Building, 11. Dragon Boat Riding, 12. Jet Ski Sport, 13. Marathon Swimming, 14. Paragliding, 15. Sailing, 16. Surfing, 17. Triathlon。また、公開競技の 2 種目では、1. Windsurfing, 2. Woodball がデモンストレーション種目として行われた。²³⁾

第 1 回バリ・ビーチゲーム大会は、アジアの 45 国の参加を得て成功裏に終了したと報道されている。特に開催国のインドネシアが男女の金メダル 22 個、銀メダル 8 個、銅メダル 19 個と言う輝かしい成績を収めた。日本は、男女の金メダル 3 個、銀メダル 2 個、銅メダル 3 個と言う結果だった。^{24, 25)} 今後このビーチゲーム大会は、2 年ごとに開催されるが、既に、2010 年にはオマーン (Oman)、2012 年には海陽・Haiyang (中国)、2014 年にはボラカイ・Baracay (フィリピン) と開催国が決まっている。

当初から男女ともに正式種目になっているビーチカバディには 4 カ国以上参加しないと大会が成立しないので、ビーチカバディを推進するアジア・アマチュア・カバディ連盟のラオ氏は、何度も正式要請文を添付した e メールでアジア各国のカバディ協会、連盟に参加要請をしている。私もラオ氏から日本カバディ協会に男女のチームが参加するよう働きかけてほしいと何度も正式要請文を添付した e メールを受けている。勿論日本カバディ協会にも JOC を通して正式に参加するよう要請を行った。AAKF (アジア・アマチュア・カバディ連盟) のラオ氏は、2008 年 10 月に開催されるインドネシア・バリ Indonesia Bali のビーチカバディ組織員会の招聘により、2008 年 4 月 6 日から 9 日までバリに滞在し、ビーチカバディの運営方法や審判法などについての指導助言を行っている。

第 1 回のビーチゲームにおけるカバディ部門の参加国は、男子が 6 カ国 (インド、パキス

タン、バングラデシュ、韓国、タイ、インドネシア)、女子が5カ国(インド、インドネシア、韓国、タイ、マレーシア)であった。しかしながら、今回の第1回のビーチゲームに、残念ながら日本カバディ男女チームは、財政的な理由と諸般の都合で男女の参加ができなかった。因みに第1回インドネシア・バリでのビーチゲームのカバディ種目で優勝したのは、男女ともにインドチームであった。今回のビーチカバディという新しい種目においても、インド男女チームの牙城を崩すことが出来なかった。しかしながら、女子ではカバディ新興国のタイが2位、3位には開催国インドネシアと韓国が獲得したことは、今後の女子カバディの新しい風になるのか、そのカバディの動向を注視したい。今回は出場できなかったが、アジアにおいてインドに次ぐ実績を持つ日本女子カバディチームにも新しいライバルが台頭してきたと認識しておくべきだろう。

今後、ビーチカバディは、1チームの選手数も6人と少なく、出場選手も4人と手軽に出来る種目として脚光を浴びるものだと心算するが、砂と言うコートの確保が大きな課題になる。海洋国日本の環境を生かして、砂浜のある場所での練習や大会開催などに着手し、普及発展が強く望まれるものである。

2. ビーチカバディ・Beach Kabaddi の特徴

ビーチカバディは、通常のカバディとは幾つかの大きな相違がある。以下がその違いであり特徴である。

- 1) コートが砂で作られている。砂は30cmの厚さであることが規則である。
- 2) コートの大きさは、男子が11m×7m、女子が10m×6mである。
- 3) 1チームが6人であり、コートでプレーする選手は4人である。
- 4) ビーチカバディのコートには、ボークラインもボーナスラインも無い。
- 5) ビーチカバディには、両コートにロビーがない。
- 6) コートのラインは3cm-5cm幅のテープ(布製やプラスチック製)が用いられる。
- 7) コートから少なくとも3mの安全地帯・区域が必要である。
- 8) 試合時間は、男女ともに前半15分、後半が15分であり、前半終了後に5分間の休憩時間がある(15分-5分-15分)。
- 10) ビーチカバディでは、アウトが無く、コートに4人全員が残り競技を行い、得点を争うという形式をとっている。この形式は、古くからあるカバディの1つであるアマル・Amarという形式を受け継いだものである。この「アマル」と言う形式のカバディは、古くからインドで行われていた3つの形式(ジェミニ・Gemini、アマル・Amar、サンジェバニ・Sanjeevani)のカバディの一つである。^{26, 27, 28)}
- 11) コートが狭い上に、必ず何がしかの得点をしないと、相手側にテクニカルポイント1点を献上するので、自ずとレイダーとアンティのプレーがアグレッシブになる。
- 12) レイダーが、必ず得点をしなければならない規則を「Productive Raid・生産的レイド」と呼んでいる。得点の内容は、レイダーが自らタッチして獲得する場合や、相手の反則で得る得点など、攻撃中にどのような形でも得点をする事である。またレイダーが捕獲されることなどもプロダクティブ・レイドの規則の範囲になり、テクニカル・ポイントは発生しない。

- 13) コートが砂と言う事もあり、倒れこんでも比較的負傷や怪我が少ない。
- 14) 砂のコートであり、運動量と体力が一段と要求される。更に、砂のコートであるので足を取られたりして、ハプニングプレーも見られる。
- 15) ビーチカバディは、当然のことであるが裸足でプレーをする。素足での動きや感触がプレーに反映され、ごく自然な動きが表現できる。
- 16) ビーチカバディも通常の7人制のカバディと同様に、特に装備する用具もいない。
- 17) ビーチカバディも、通常のカバディ同様に確かな個人技術、チーム技術が要求される。

3. ビーチカバディの規則上の特徴

- 1) 生産的レイド・Productive Raider という規則があり、もしレイダーが得点をしないで自陣に戻ると、相手側にテクニカルポイント1点を与えなければならない規則がある。
- 2) アンティがレイダーにタッチされた場合でも、コートアウトしなくてもよい規則である。
- 3) レイダーがアンティに捕まえられても、コートアウトしなくてもよい規則である。
- 4) ビーチカバディでは、ボークラインやボーナスラインが適用されていない。したがってボークラインとボーナスラインは引かれていない。
- 5) 通常のカバディと違いコートも（男子が11m×7m、女子が10m×6m）小さい。プレーする選手の人数も少なく、1チーム6人であり、実際にコートに入りプレーする選手は4人である。
- 6) ビーチカバディの男女の競技時間は、前後半ともに15分である。前半終了後には5分の休憩時間がある。
- 7) 各チーム共に、主審の許可を得て前半3回、後半3回の30秒のタイムアウトが取れる。
- 8) ノックアウト（トーナメント）方式の試合で同点の場合には、両チーム4人の選手がコートに入り、各チームが申告した3人の選手が交互にレイドを行い、得点を競う。この3人のレイドでも同点の場合には、ゴールデン・レイド Golden Raid の規則を適用する。
- 9) ゴールデン・レイド Golden Raid とは、3人の選手がレイドを行った後でも、得点がなく同点の場合には、改めてコイントスを行い、トスに勝ったチームが、レイドを行う。これがゴールデン・レイドである。ゴールデン・レイドにおいて最初に得点をしたチームが勝者になる。
- 10) 審判員の人数は、主審（レフリー）、副審（アンパイアー2名）、スコアラー、テーブル審判員の5名である。したがって、通常の7人制カバディで採用しているアシスタント・スコアラー2名は、適用していない。

4. ビーチカバディのレイダー・Raider とアンティ・Anti

- 1) コートが狭いのでレイダーとアンティ動きが素早くなる。
- 2) コートが砂ということで通常のグラウンドよりも怪我の心配が少ない。
- 3) レイダーは、単に一呼吸で攻撃してただ単に安全に自陣に戻ると、相手チームにテクニカルポイント1点を与えることになるので、得点を得ようと激しい攻撃になる。
- 4) レイダーの順番は、野球の打撃順（1番～9番）のように決められてはいない。任意の

選手が5秒以内に攻撃に移らなければならない。したがって、レイドの得意な選手が何度でもレイドに参加することが出来る（この規則は、通常のカバディと同じである）。

- 5) アンティも砂のコートであり、アグレシブになれる。すなわち、グラウンドで行われるカバディ比にして怪我の心配が少し緩和されるので積極的な攻撃・防御ができる。
- 6) 1チームの選手が4人という攻撃と防御であり動きがやりやすい。通常、アンティは、攻撃と防御も行うので「アンティ・レイダー、Anti Raider」という。
- 7) 防御におけるアンティでは、やはり通常の7対7のカバディ同様に、手首を繋ぐ、チェーンシステムが重要になる。基本的には、2-2のチェーンシステムがとられるが、1-2-1のフォーメーションを作り、レイダーの動きにより臨機応変に隊形を取ることが必要である。
- 8) 2-2のチェーンシステムとは、2人が互いの手首を取り合うフォーメーションである。
- 9) 1-2-1のフォーメーションとは、1人がフリー、2人が手首を取り、そして1人がフリーな状態でレイダーとの適当な間合いをとり攻撃防御隊形をつくることである。
- 10) アンティは、最初から4人がフリースタイル、つまり4人がバラバラで攻撃・防御することは、推奨できない。なぜなら、フリースタイルになると、組織的な攻撃防御体制が崩れてしまうからである。アンティのチェーンシステムは、カバディの大きな特長である。
- 11) 4人のアンティであるが、チェーンシステムを生かしたカバディの攻撃・防御スタイルを行うことが最大の武器になることを肝に銘じてはならない。
- 12) 全選手にコートアウトが無いのが特徴であり、4人が常にコートにいて攻撃・防御するので協力体制と連携、すなわち、チームプレーがより重要である。

5. ビーチカバディ・Beach kabaddi Q & A

ビーチカバディは、通常7人対7人のカバディと幾つかの点で大きな相違がある。ここでは、Q & A（質問と回答）と言う形式でビーチカバディの特徴や通常7人制カバディとの違いや特徴などの全容を解剖し明らかにしてみたい。Q & Aはアジア・アマチュア・カバディ連盟・AAKFの規則に照らして作成したものである。

- 1) Q. ビーチカバディとはどのようなものですか？
A. ビーチカバディは、深さ30cmの砂のコートで行うカバディです（定義のグラウンド）。但し、コートには、石、岩、貝殻などがなく、安全にプレー出来る平坦なものであることが必要です。（定義:グラウンド）
- 2) Q. コートの大きさはどれ位ですか？
A. 男子が11m×7m、女子が10m×6mの大きさです。通常のカバディよりも少し小さくなっています（定義1-a）。
- 3) Q. 体重制限などがありますか？
A. 体重制限があります。男子が80kg以下、女子が70kg以下となっています（定義1-a, b）。
- 4) Q. ビーチカバディの競技人数は何名ですか？
A. 1チーム6名です。コートでプレーする選手は4名です（競技規則1）。

- 5) Q. コートの線はどのような物で引くのですか？
A. 線は3-5cm幅の布製又はプラスチック製テープなどを用います（定義2-バウンダリー）。
- 6) Q. コートには、ボークラインはありますか？
A. ビーチカバディでは、ボークラインがありません（定義-プレーフィールド）。
- 7) Q. ビーチカバディでは、ボーナスマインルールはありますか？
A. いいえ、ボーナスマインルールは用いてないのではありません。ボーナスマインとは、通常の7人対7人のカバディ競技において5人以上の選手が防御している状態の中で、ボークラインの更に内側にある線（ボーナスマイン）を踏み越えるとボーナスマイン点（1点）を獲得できるものです（定義-プレーフィールド）。
- 8) Q. ミッドライン・Mid Lineとはどこのラインですか？
A. ミッドラインは、両チームを分けるラインです。このラインは大変重要なラインで、レイダーが攻撃を終えて自陣に戻る場合に重要です。特に、アンティにタッチして、正しいキャントを唱えながらミッドラインを少しでも越えて倒れこむようにして自陣コートに戻った場合には、タッチしているアンティは全員アウトになります。但しビーチカバディではアウトにならず、タッチした人数分の得点が加算されます（定義3）。
- 9) Q. 競技中にコート外に出た選手はどうなりますか？
A. 競技中にコートから出た選手はアウトになります。相手側に1点が入ります。この選手が再びコートに戻りレイダーを捕らえると反則になります。つまり、アンティがアウトになり、例えレイダーが捕らえられても、レイダーはアウトにならず1点獲得できます（競技規則3、a）。
- 10) Q. カバディでのタッチとは、どう言う状態を言うのですか？
A. タッチとは、レイダーが自分の手足や体を用いてアンティに意図的にタッチする事を言います。タッチ（接触）が始まりますとストラグル・Struggleとなります（定義12）。
- 11) Q. アンティが、レイダーを捕まえようとしてレイダーに触れることは、何と言いますか？
A. アンティがレイダーに触れたり、捕まえる状態のことをストラグル・Struggleと言います。ストラグルという場合は、アンティ側は捕まえようとし、レイダーはタッチして自陣に戻ろうとするので、互いに激しい攻防が行われ、もつれ合い状態になるのが一般的なストラグルの形です。（定義13）。
- 12) Q. ストラグルになり、アンティがレイダーを捕まえそこなえて、レイダーが自陣に戻った場合には、判定はどのようになりますか？
A. 当然、アンティはアウトになり、レイダーの攻撃側に得点が入る。更に、もし複数のアンティが、レイダーを捕まえようとレイダーに触れていれば、触れた選手は全員アウトになります。（定義09）
- 13) Q. レイダーが相手側コート内で捕まり、自陣に戻れない場合には、アンパイアの判定はどうなりますか？
A. この場合、レイダーはアウトになり、アンティ側に1点が入ります。審判は強く笛を吹いてプレーを止めます（定義10）。

- 14) Q. レイダーが明らかにアンティ側に抑えられてしまい、逃れられないような場合にはどのような審判の対応になるのですか？
- A. レイダーが捕まえられて逃れられない状態になった場合には、アンパイアーはタイミングよく笛を吹いてプレーを止めることとなります（定義10）。
- 15) Q. 激しいストラグル状態の場合には、審判はどうか対応しますか？
- A. この場合には、危険防止やけが防止を優先させて、素早く笛を吹いてプレーを止めることとなります。（重大な違反と反則：03-d、g）。
- 16) Q. カバディでいうキャント・cantとは、どういうことを言うのですか？
- A. キャントは、レイダー・攻撃手がカバディという単語を相手コートに触れる前から、「カバディ、カバディ、カバディ・・・」とリズムカルに大きい声で息の続く限り行うことを言います。但し、キャントは一息（一呼吸）で行わなければなりません。したがって、キャントをしながら攻撃をして自陣に戻らなければなりません（定義5）。
- 17) Q. キャントの声が小さかったり、カバディという単語が不鮮明になると、審判から大きい声で唱えよと、注意（警告）されますか？
- A. 実際には、キャントが審判に聞こえるように大きく明瞭に唱えよと注意・警告うけるので、笛が吹かれレイダーに自陣に戻れと指示されます。この場合には、相手側にレイド権（攻撃権）が移動し、相手側にテクニカルポイント1点が入ります（定義5、競技規則4と10）。
- 18) Q. キャントは一呼吸で行うといいますが、途中で呼吸をしてしまった場合には、どう判定されるのですか？
- A. Q.17と連動する質問ですが、当然不正なキャントとして反則になり、自陣に戻るよう審判から指示されます。この場合には相手側にレイド権が移り、テクニカルポイント1点を相手側に与えることとなります（競技規則4）。
- 19) Q. レイド権を得て、レイダーが攻撃に入るときのタイミングはありますか？
- A. タイミングがあります。レイド権を得たチームは、5秒以内に攻撃に入らなければなりません（競技規則8）。このタイミングが遅れると、レイド権が相手側に移り、更に、テクニカルポイント1点が相手側に与えられます（競技規則7）。
- 20) Q. レイドを得たチームが複数のレイダーが相手コートに入った場合には、どうなるのですか？
- A. この場合には、アンパイアーにより笛が吹かれ全員自陣に戻るよう指示されます。勿論レイド権が相手チームに移り、テクニカルポイント1点が相手側に与えられます（競技規則7）。
- 21) Q. パーシュート・Pursuit（追撃）とはどういうことを言うのですか？
- A. アンティが、自陣に戻るレイダーにタッチしようと、勢いよく追いかけるように走り攻撃するような状態のことを言います（定義15）。
- 22) Q. レイダーが、単純にアンティにタッチして、自陣に戻る場合などは追撃（パーシュート）されるのですか？
- A. はい、レイダーは、追撃されます（競技規則9-Note）。したがって、敵に背中を見せて不用意に帰るとタッチされる危険があります。したがって、周囲を目でよく見て素早く自陣のポジションに戻る必要があります。

- 23) Q. レイダーが、アンティにタッチして、互いにもつれ合い、倒れこみながら自陣のミッドラインを超えたような場合には、レイダーは追撃されますか？
- A. 審判はレイダーが安全に自陣に戻るまで試合を止めることとなります（競技規則 9）。
- 24) Q. レイダーが口を塞がれたり、喉を絞められたような状態で捕まえられたり、怪我を引き起こすような危険なタックルや、蟹ばさみなどで捕らえられた場合にはどう判定になるのですか？
- A. 審判は即座に笛を吹いてプレーを止めます。捕らえられたレイダーは捕まえられたことになりません。危険なプレーをしたアンティに注意が与えられ、テクニカルポイント 1 点がレイダー側に与えられます（競技規則 11、及び審判の項-3 と 4 を参照）。
- 25) Q. Q. 24 のような場合には、Green Card（警告）、Yellow Card（2 分間の一時的退場）、Red card（その試合出場停止やトーナメントからの追放）などの規則がありますか？
- A. 審判の状況判断により、グリーンカード、イエローカード、レッドカードが出されることとなります。
- 26) Q. 危険なプレイとは、どのようなプレイを言うのですか？
- A. 例えば、意図的に強引に押し出すとか、引き出すというプレーです。そのほか、怪我を引き起こすような殴る、蟹バサミをする、タックルをするなどがあります。この危険なプレーはレイダーにもアンティにも適用されます（競技規則 11、12 及び審判の項-3、4）。
- 27) Q. レイダーがプレー中にコートの外に出た場合はどのような判定になるのですか？
- A. レイダーがコートの外に出た場合には、その時点でアンパイアーの笛が鳴ります。ビーチカバディでは、通常のカバディのように一時退場をしなくてよい規則であり、すぐ自陣に戻りプレーを行います。1 点が相手側に与えられます。（競技規則：3-a）
- 28) Q. アンティが、プレー中にコートの外に出た場合には、どのような判定になるのですか？
- A. コートアウトしたアンティの選手はアウトになり、相手側に 1 点が入ります。レイダーがプレーしている状態のときは、アンパイアーの笛は鳴りません。笛を吹くとプレーが止まってしまうので、審判は笛を吹きません。（競技規則：3-a）
- 29) Q. 一度コートアウトしたアンティが、再びコートに入り、レイダーを捕まえた場合には、判定はどうなりますか？
- A. この場合は、レイダーはアウトになりません。レイダーを捕らえたアンティがアウトになります。したがって、相手側に 1 点入ります。（競技規則：3-b）
- 30) Q. レイダーがプレー中に、アンティが相手コートに触れてしまった（手をついたり、足を踏み入れた）場合はどのような判定になりますか？
- A. この場合には、手や足を踏み入れたアンティは、アウトになります。しかし、レイダーがプレー中なのでアンパイアーは笛を吹きません。但し、審判はそのアンティを素早く外に引き出します（競技規則 13）。
- 31) Q. 攻撃中のレイダーが、自陣のコーチや監督から指示を貰った場合には、審判上の罰則はあるのですか？
- A. 当然、審判から注意（警告）があります。その後も同じような指示を受けた場合に

- は、審判は警告カードが出されることとなります。したがって、その場合には相手側に1点のテクニカルポイントが与えられます（競技規則15）。
- 32) Q. レイダーの攻撃中に、アンティに対してコーチらが指示をした場合には、審判の判定はどうなるのですか？
- A. Q. 31と同様に、審判は注意（警告）をすることとなります。再三指示を出した場合には、警告・Green Cardを出されることとなります。したがって、テクニカルポイント1点が相手側に与えられます（競技規則15）。
- 33) Q. レイダーが、ユニホームなどを掴まれて、捕らえられた場合には審判の判定はどうなるのですか？
- A. この場合には、審判の笛が吹かれユニホームを掴んだアンティに反則を言い渡します。審判は衣服を掴んだアンティに注意・警告を与えます。レイダー側にテクニカルポイント1点が入ります（競技規則16とNote）。
- 34) Q. アンティが衣服をレイダーに掴まれた場合には、どういう判定になるのですか？
- A. Q. 33と同様に、レイダーに注意が与えられます。レイダーはアウトになり、テクニカルポイントがアンティ側に与えられます（競技規則16とNote）。
- 35) Q. レイダーが髪の毛をつかまれて、アンティ側に捕らえられた場合には、審判はどのような判定になるのですか？
- A. 審判は即座に笛を吹き、競技を止めます。髪を掴んだ選手はアウトが宣告されます。さらに、髪を掴んだ選手は注意・警告を受けます。レイダー側にテクニカルポイント1点が与えられます（競技規則16とNote）。
- 36) Q. プロダクティブ・レイド・Productive Raidとはどんなことを言うのですか？
- A. プロダクティブ・レイド・生産的レイドとは、全てのレイダーは攻撃してタッチして得点を取るか、反則点をとるか、自らアウトになるか、兎に角、何らかの得点をするか、与えるかしなければならないという規則です。したがって、得点が発生しなければ相手側にテクニカルポイント1点が与えられます（試合規則4）。
- 37) Q. プロダクティブ・レイド・生産的レイドの規則は、ビーチカバディのみに適用されるものなのですか？
- A. はい、その通りです。試合の攻撃・防御を活発にさせるために、取り入れた規則といえます。通常のカバディの試合では、適用していないルールです。（試合規則：04）
- 38) Q. タイムアウト・Time Outは何回取れるのですか？
- A. タイムアウトは前半3回、後半3回取ることが出来ます。1度のタイムアウト時間は、30秒です（試合規則5-a）。
- 39) Q. タイムアウトはどのようにしたら、とることが出来るのですか？
- A. コーチや監督からの要望により、審判の許可を得て取ることが出来ます。タイムアウトを取るときは、自陣の攻撃中の時に審判の許可を得て、次のレイド権が来たときに取ることとなります（試合規則5-a）。
- 40) Q. タイムアウト時には、コートを離れることが出来るのですか？
- A. 両チームの選手は、コートを離れることが出来ません。コートを離れた場合にはテクニカルポイントが相手側に与えられます（試合規則5-b）。
- 41) Q. オフィシャルタイムアウト・Official time outはありますか？

- A. オフィシャルタイムアウト・任務上のタイムアウトです。特に、怪我やラインの整備、予期せぬ出来事などが起った場合に、審判が笛を吹いて Official time out と宣言することになります。この任務上の時間は試合時間に加算され続行されることとなります（試合規則 5-c）。
- 42) Q. 選手交代は出来るのですか？
- A. 2人の選手が主審の許可を得て交代することが出来ます。（試合規則：06）
- 43) Q. 試合の勝者は得点により決まるのですか？
- A. 試合終了時の得点の多いチームが勝者になります。（試合規則：07）
- 44) Q. ノックアウト（トーナメント）方式において、同点の場合にはどのようなことが行われるのですか？
- A. 同点の場合には、以下の基準により行うこととなります（審判規則 8）。
- ①両チームは、4人の選手から3人の選手を選び、レイド（攻撃）順の背番号を審判に告げます。
 - ②試合開始で最初にレイドを行ったチームが、初めにレイドを行うこととなります。
 - ③各チームのレイドは、審判に申告したレイド順で交互に行うこととなります。
 - ④もし、レイド前に、怪我などがあり後退を余儀なくされたチームは、コートにいる4人の残りの選手をレイドに送ることが出来ます（審判の許可を得て）。
 - ⑤3選手がレイドを行った後も、同点の場合には、「Golden Raid」というルールで行うこととなります（ノックアウト方式（トーナメント）で同点の場合：審判規則 8）。
 - ⑥選手が、延長戦中に警告などで、一時退場をしたような場合には、そのチームは、少ない人数で競技をしなければなりません（ノックアウト-Note）。
- 45) Q. ノックアウト（トーナメント）方式における“Golden Raid・ゴールデンルール”とは、どのような規則なのですか？
- A. ①両チーム3人の選手がレイドを行った後も同点の場合は、改めてコイントスを行い、トスに勝ったチームが、レイドの機会があります。これを“ゴールデンレイド”と言います。
- ②ゴールデンレイドの後、もし同点である場合には、相手チームに1回のレイドが与えられます。
- ③ゴールデンレイドにおいて、最初に得点をしたチームが勝者となります。（試合規則：Golden Raid）。
- 46) Q. リーグ戦における試合での勝者、引き分け、負けチームの点数はどのように決まるのですか？
- A. 試合に勝ったチームが2点、引き分け場合は、両チームに1点、負けたチームが0点となっています。したがって、勝ち点の多いチームが勝者になります。
- 47) Q. リーグ戦において、勝ち点が同点の場合には、その組の1位と2位は、どのように決まりますか？
- A. 以下の「得失点」の基準により決められます。（試合規則：a, b, c, d, e, f, g）
- a) リーグの勝ち点が25%より少ない得点のチームは、「得失点」の計算の対象となりません。

- b) 順位を決定するには、同点チームの「得失点」と、リーグ得点の25%以上を得点しているチームとを比較して、その差を計算します。
 - c) 「得失点」差の最も大きいチームが、その組の優勝となります。
 - d) 「得失点」差でも同点となる場合には、次は「得点」のみをみます。
 - e) それでも同点の場合には、同点チーム同士の対戦結果をみます。
 - f) それでも同点となる場合には、25%ルールを適用せずに得点をみます。
 - g) それでも同点の場合には、コインを投げて優勝、準優勝を決定します。
- 48) Q. 採光不足や、雨や不測の事態などで試合継続が出来なくなると判断された場合には、審判によりどのような措置がとられますか？
- A. この様な場合には、次の日に再試合を行うことが出来ます。その場合には、チームの選手布陣は、必ずしも同じ選手でなくても競技することが出来ます（試合規則10）。
- 49) Q. 試合が一時中断した場合には、その後の試合はどのように継続されますか？
- A. この様な場合には、中断したときの状態で、残りの時間を継続して行います。選手は中断中、審判の許可なしにコートを離れることは出来ません。違反すると相手チームにテクニカルポイント1点を与えることとなります（試合規則10,11）。
- 50) Q. 試合に出場する選手は、爪やオイルなどのようにしたらよいですか？
- A. カバディでは、爪をよく短く切ることが義務づけられています。飾り物、装飾品などの使用禁止になっています。又危険な金具類などもチェックします。試合前にそのような事が発覚すれば、爪を切り、又飾り物や装飾品を取り外し、オイルをふき取り、危険物を取り除くように指示を受けます（試合規則12,14）。
- 51) Q. 選手はゼッケンをつけることが、必要ですか？
- A. 胸と背中にゼッケン（番号）をつけることが義務付けられています。大きさは、胸が4インチ(10.2cm)、背中が6インチ(15.2cm)の大きさです。はっきりしたゼッケン（番号）が必要です（試合規則13）。
- 52) Q. 審判員は何名いますか？
- A. 主審1名、アンパイアー2名、スコアラー1名、テーブル審判員1名です（審判員規則1）。
- 注：ビーチカバディの場合には、アシスタントスコアラーは採用していません。
- 53) Q. 重大な違反ならびに反則とはどのような状態を言いますか？
- A. 1) 審判の判定に対して執拗に不平不満を口にする。（審判規則：03-a, b, c, d, e, f, g, h, i)
- a) 審判に対して著しく侮蔑的な言葉を吐いたり、審判の判定を促すような行動をとるような言動をとる場合など。
 - b) レイダー又はアンティが、審判の判定に対して指で指摘をするなどの行為をした場合など。
 - c) レイダーを捕らえるのに、口を押さえ喉を絞めるような行為をした場合など。
 - d) 怪我を招くような激しい意図的なタックルをした場合など。
 - e) レイダーが5秒以上時間を取り、攻撃に入る場合など。
 - f) レイダー捕獲の際に、蟹バサミの様な危険な行為をした場合など。
 - g) コーチや選手がコート外から選手への指示をした場合など。

- h) レイダーの腹を押さえて妨害するような場合など。
i) レイド権の順番を妨げることなど。
- 54) Q. 主審とアンパイアーは、選手やコーチらが引き起こす重大な違反や危険な反則に対して警告を出したり、一時退場や試合からの退場などの判定を下すことが出来ると思いますが、具体的にはどのような場合ですか？
- A. 1) グリーンカード・警告の場合：グリーンカードを手に持ち、掲げて警告をします。この警告が2回になると、イエローカードと同じ警告内容になります。
2) イエローカード・2分の一時退場の場合：怪我を招くような危険なプレーやコート外からの選手への執拗な指示をしたような場合に出されます。
3) レッドカード・その試合からの退場やトーナメントからの除名：イエローカードを2回貰ったり、レッドカードに相当する重大な違反、反則を犯した場合に出されます（試合規則－4）。
- 55) Q. 主審の役割とはどのようなことですか？
- A. 主審は、試合全体の管理運営を行います。審判団の協力体制をとり試合を規則通りに速やかに進行させることが必須なことです。細かくは以下のようなことを行います（主審の任務5）。
- 1) コイントス行う。試合開始、ハーフタイムや終了を宣言する。交代選手の告知、試合が止まった後の試合再開をする、タイムアウト後の試合再開をする、試合終了時間5分前に両チームの得点の発表をする、試合終了時間5分に、ラスト5分と大きく宣言し、次の1分ごとに4分、3分、2分、1分と宣言を行います。
2) その他、2人のアンパイアーの判定に食い違いがあれば、最終的には主審が裁断を下します。
- 56) Q. 2人のアンパイアーがいますが、実際はどのように対応しますか？
- A. カバディの実際の判定は2人のアンパイアーによって行われます。各アンパイアーはサイドライン側に位置し、プレーの見やすい角度・位置を取り規則に従い判定を迅速に的確に出します。2人のアンパイアーの協力体制が必要です。また主審との連携も必要です（試合規則－アンパイアーの義務6）。
- 57) Q. スコアラーは、どのような任務をもっていますか？
- A. a) 両チームの選手名、ゼッケン番号、先発選手の記録をする、トスに勝ったチームの記録をする。試合開始、終了などの時間を記入する。試合会場、日付なども記入する。
b) 両チームの全得点をスコアシートに記入する。得点はランニングスコアシート（1から100mまで書かれた数字）に（/）をつける。
c) 最初に得点したチームには、そのチームのランニングスコアシートの数字1に（□）を記入する。
d) 主審やアンパイアーにより宣告されたテクニカルポイントは、ランニングスコアシートの数字を（○）で囲む。各チームのタイムアウトは、各チームのタイムアウト記入欄に“T”を記入する（審判によるオフィシャル・タイムアウトも記録する）。
e) 交代選手を記入欄に背番号で記入する（記入例：6→8、これは6番アウト8番インの意味である）。

- f) スコアシートを正しく完全に記入し、確認をしたら、主審とアンパイアーの署名欄に署名を貰います。
- g) 試合開始時間、前半後半の終了時間、チームや審判によるタイムアウト時間、選手交代などの記録をする。
- 58) Q. ビーチカバディでは、テーブル審判員というオフィシャルがいるようですが、どのような任務をするのですか？（審判員規則：テーブル審判員の任務）
- A. a) 試合の開始と終了の時間の記録をする。
b) ハーフタイム、タイムアウト後の試合開始の時間を主審に告げる。
c) 後半試合での最後の5分間の時間を主審に知らせる（具体的には1分、2分、3分、4分、5分と書かれたカードを提示して主審に知らせる）。
d) 交代選手が誰と誰かを記録する。記入例：4番→3番へ（これは4番アウト、3番インを示す）。
- 59) Q. アシスタント・スコアラーがいないと聞きましたが、どうなんですか？
- A. アシスタントスコアラーは配置されていません。したがって、アンパイアーがラインアウトなども監視して任務を行います。
- 60) Q. 試合における陪審員とはどのような任務をもっていますか？
- A. AAKF・アジアアマチュアカバディ連盟の技術委員・Technical Director から指名された3名の陪審員が担当します。試合の不測の事態には、陪審員がその任務を履行します。陪審員は、その試合をする国からは選ばれません。したがって、中立国から選ばれます。（審判規則：試合陪審員 09）

おわりに

アジアにおけるビーチカバディは、まだ緒についたばかりのニュースポーツ種目である。筆者は、インドにおいて初めてビーチカバディを見聞して、おおむね次の知見を得ることができた。

1. ビーチカバディは、通常のグラウンドや室内のマットを用いて行う種目と違い、砂のコートで行われるという新しいスポーツ（ニュースポーツ）である。コートもサイドライン11m×エンドライン7mが男子、10m×6mが女子のコートであり、コートが小さい。コートはミッドラインで2分される。コートの砂は厚さ30cmであり、小石や危険物が混入していないことは勿論である。
2. ビーチカバディのコートは、砂浜だけでなく、規則に見合った砂のコートであれば、特設コートでも行うことが出来る。プレーコートの周囲には、3mの安全地帯、空間が必要である。
3. コートのラインは、3cm～5cm幅の布製やプラスチック製のテープなどが用いられる。テープの色は特に決まりがない。
4. 1チームの人数は6名であり、実際にコートでプレーする選手は4名である。2名の選手が交代選手であり、審判の許可を得て交代することが出来る。
5. ルール上の特徴では、ボークラインやボーナスラインなどが適用されていない。したがって、ボークラインとボーナスラインの線が引かれていない。

6. ビーチカバディでは、生産的攻撃・Productive Raid という規則が適用されていて、レイダーが攻撃で得点をしないと、相手側チームにテクニカルポイント1点を与えなければならない。
7. アンティ側が攻撃しているレイダーを捕らえた場合には、アンティ側に1点が与えられ、生産的攻撃・プロダクティブ・レイドの規則は適用されない。つまり、テクニカルポイントは発生しない。
8. 生産的攻撃・プロダクティブ・レイドの規則は、通常の7人体制のカバディには、無い規則である。
9. この生産的攻撃ルールは、試合をよりアグレッシブにして、魅力ある攻撃防御の展開を奨励した規則である。レイダーがどのような得点でも獲得しなければならないものである。すなわち、タッチの得点でも、反則点でも何がしかの得点を獲得しなければ相手側に1点与えなければならないルールである。
10. レイダーは、捕まえられても、コートの外に退場することなく、プレーを行うことが出来る。同様にアンティもタッチされてもアウトにならない。したがって、両チームともに選手はアウトにならず、得点のみを争う規則である。
11. ビーチカバディは、文字通り砂のコートで行われるので選手がより積極果敢になり、ゲーム展開が速く、面白い。
12. 砂のコートで行われるので、通常グラウンドで行うカバディに比して怪我なども少ないように見聞できた。
13. 砂のコートであり、攻防にゲームの意外性などがより発揮され、面白いゲーム展開が見られる。更に、生産的レイドというルールがあり、攻防がより積極的になり、ゲーム展開が速い。4名の選手同士のチームプレーがより重要な種目であり、見ていても引き込まれ、興奮や熱狂の「るつぽ」になるようだ。
14. 参加人数が1チーム6名と少ないので、チーム編成をするのが容易である。これもカバディ普及発展を目論む理由の一つに上げられよう。

附録 アジア・アマチュア・カバディ連盟のビーチカバディ競技規則について

「ビーチカバディの規則」は、アジア・アマチュア・カバディ連盟の最新英語版の規則書である。このビーチ・カバディの規則の骨子が完成するまでには、次のようなことがあった。2007年5月下旬、ラオ氏宅に筆者の友人でもあるインド連盟およびハイデラバード連盟の事務総長のジャガンデシュウエル・ヤダブ氏がやってきて、パソコン上の原稿を見ながら二人で深夜まで規則に修正を加えてアジア連盟のビーチカバディ規則が出来た。その席の傍らに筆者も数日間居合わせることが出来たことは、感慨深いものがある。したがって、ビーチカバディの規則はその時おおむね把握できた。実際にはガンディナガル・スポーツセンターのビーチカバディコートにおいて、筆者のために男子カバディ練習生・訓練生達が練習試合を行ってくれたので、ビーチカバディとはどのような競技なのかを目の当たりにすることが出来た。

以下に、アジア・アマチュア・カバディ連盟のビーチカバディ英文規則「用語の定義、競技規則、試合規則、審判員」の筆者訳を掲載させて頂く次第である。

アジア・アマチュア・カバディ連盟のビーチカバディ競技規則

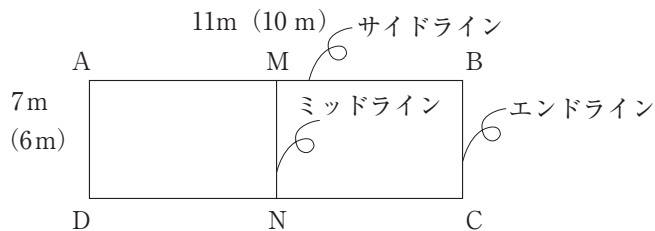
ビーチカバディの試合は、アジア・アマチュア・カバディ連盟の下記の規則にも基づいて競技し管理運営される。

グラウンド：グラウンドは、深さ 30cm の砂で整地されものである。

01) コートの大きさ：

- 男子と 20 歳以下の男子：成人男子と 20 歳以下（ジュニア）の男子は、下記の図に示されているように、11m×7m であり、ミッドラインで 2 分される。
- 成人男子は 80kg 以下。20 歳以下（その年の最後の日）は 65kg である。
- 女子と 20 歳以下の女子は、10m×6m（図を参照）である。
- 女子の体重は 70kg、20 歳以下（その年の最後の日）のジュニア女子は 60kg 以下である。国内連盟または協会は、ジュニア選手の生年月日が証明されたパスポートの写しを用意しなければならない。参加選手の生年月日と写真は、学校長により点検され証明されたものである。大会では、証明された生年月日のみが受領される。

男子、ジュニアと女子のコート



注：() は女子コート

02) コートの境界線：

コートの 4 つの (AB, BC, CD, DA) の線が、境界線である。全ての境界線の幅は、3～5cm であり、コートに含まれる。ラインは均一にテープ又は布で整備される。

- 境界線と観客席との間は、最小限で 3m の安全な地帯（区域）が必要である。
- ボークラインとボーナスラインの線は用いていないので引く必要はない。

03) ミッドライン（中央線）：

コートを 2 分 (MN) する がミッドラインである。

04) コート・Court：

ミッドラインで分けられたそれぞれのコートの半分がコートである。

05) キャント・Cant：

一呼吸で、“カバディ”という認められた単語（言葉）を一呼吸（一息）で、息継ぎすることなく明瞭に繰り返すことを“キャント”という。

06) レイダー・Raider（攻撃者）：

キャントを唱えながら相手コートに攻め込む選手を“レイダー”という。レイダーは、相手コートに足が触れる前にキャントを唱えなければならない。

- 07) アンティ又はアンティレイダー・Anti or Anti raider :
レイダーが、攻撃している相手側の全選手をアンティ又はアンティレイダーという。
- 08) キャントの失敗・Loosing the cant :
レイダーが攻撃中に息継ぎを行ったり、“カバディ”と言う単語（言葉）を大きく明瞭に繰り返すことが出来ない場合を、キャントの失敗という。“キャント”は、一呼吸（つまり一息）で攻撃しなければならない。
- 09) アンティのアウト・To put out an anti:
レイダーが、規則を破ること無しにアンティの体のどの部分でも、手足を用いてタッチし、レイダーがキャントをしながら自陣コートに体のどの部分でも触れれば（戻れば）、アンティは、アウトになる。
- 10) レイダーの捕獲・To hold a raider :
アンティが、規則を破ること無しに、レイダーを捕まえてレイダーをコートに帰れないようにした場合、キャントが出来なくなるまで捕らえた場合や審判の笛が吹かれるまで捕らえ続けた場合が、レイダーの捕獲である。
- 11) レイダーが自陣に安全に戻ることにについて・To reach court safely :
レイダーが、キャントをしながら、体の一部がミッドラインを越えて自陣コートに戻れば、レイダーが安全に自陣に戻ったという。そしてレイド権が相手チームに移動する。
- 12) タッチ・Touch :
レイダーが、アンティ、またはアンティレイダーの体のどの部分でも、又靴やユニホームなどにタッチした場合もタッチという。
- 13) ストラグル・Struggle :
アンティ又はアンティレイダーが、レイダーと接触した場合（レイダーがアンティ又はアンティレイダーに接触した場合を）ストラグルという。
- 14) レイド・Raid（攻撃）:
レイダーがキャントを行いながら、相手コートに攻め込むことをレイドという。
- 15) パーシュート・Pursuit（追撃）:
攻撃を終えて自陣コートに戻るレイダーをアンティがキャントを行いながらレイダーを追いかけてタッチしようと突進することをパーシュート・追撃するという。

競技規則・Rules of Play

1. コイントスに勝ったチームは、レイドかコートを選択する権利が与えられる。トスに敗れたチームは、残りの選択権を得ることが出来る。試合後半戦では、コートを交代し、前半戦でレイドを行わなかったチームが、後半戦最初のレイドを行う。
2. 選手が境界線の外のグラウンドにタッチ（触れた）場合にはアウトになるが、ストラグル中のときは、コートに体の一部が接触していればアウトにならない。つまり、接触した体の一部がコート内側になければならないということである。
3. a) レイダーが攻撃中に外に出た場合はアウトになる。アウトの場合は、アンパイアー又は主審が、コートアウトの選手のゼッケン番号を呼称し、アウトにする。レイダーの場合には、レイドが終了したことを告げる。

- b) 境界線を越えたアンティ（規則3a）が、レイダーを捕らえた場合に、レイダーはアウトにならないとことを宣告する。境界線を越えた選手はアンティ又はアンティはアウトが宣告される。
4. レイダーは、“カバディ”という決められた単語（言葉）を継続して唱えなければならない。レイダーが相手コートで、カバディという語を唱えることが出来なかつたりした場合、レイダーは主審によりコートに戻るよう宣告され、相手側に、テクニカルポイント1点が与えられる。この様な場合にはレイダーは追撃されない（レイダーが安全に自陣に戻るまで）。
 5. レイダーは、相手コートに触れる前に、キャントを唱えなければならない。もしもキャントが遅れてコートに入った場合には、アンパイアー、主審によりコートに戻るよう指示される。相手側にテクニカルポイント1点があたえられ、レイド権が相手側に移動する。
 6. もしもレイド権を間違えて、レイドをした場合には、アンパイアー又は主審が、レイダーを自陣コートに戻らせ、相手側にテクニカルポイント1点が与えられる。
 7. 一度に複数名のレイダーが相手コートに入ることは出来ない。もし、1人以上のレイダーが相手コートに入った場合は、アンパイアー又は主審がレイダー全員をコートに戻るよう指示し、相手側にテクニカルポイント1点が与えられる。そしてレイド権も相手側に移動する。
 8. レイダーが自陣に戻った場合や、相手コートで捕獲された場合の後は、相手側は、5秒以内にレイダーを攻撃させなければならない。このように、両チームとも試合終了まで交互にレイダーを送らなければならない。もし5秒以内にレイダーが攻撃できない場合には、そのチームはレイド権を失い、テクニカルポイント1点を相手側に与えることになる。
 9. もしも、レイダーがアンティの捕獲から逃れようと試みて、自陣コートのミドライン上などに倒れこむような場合には、レイダーは追撃されない。
★注：もし、レイダーが、アンティにタッチして自陣に戻るような、通常の場合には、レイダーは、攻守交代した相手側のレイダーに追撃される。
 10. レイダーが、相手コートでキャントに失敗したり、タッチ及びストラグル無しに自陣コートに戻る場合には、レイダーはアウトになり、相手側にテクニカルポイント1点が与えられる。
 11. レイダーがアンティにより故意に口を押さえられたり、怪我を招くような激しいタックル、蟹バサミやその他の不正な方法で捕まえられた場合には、アンパイアー又は主審はレイダーに対して「ノットアウト」を宣言する（審判規則 No.3 と 4 を参照されたい）。
 12. アンティは、自分の体のどの部分を用いても、故意にレイダーを境界線の外に押し出したり、引き出したりすることは出来ない。レイダーも同様にアンティを故意に境界線から押し出したり、引き出したりすることは出来ない。もし、アンティ又はレイダーが、故意に押し出したり、引き出したりした場合には、アンパイアー又は主審は、レイダーもしくはアンティに対して「ノットアウト、アウトではない」ことを宣告しなければならない。逆に押し出したり引き出したりしたレイダー又はアンティに対して、アウトを宣告しなければならない。
 13. アンティはレイダーがレイド中には、レイドが終るまで相手のコートに触れることは出来ない。レイドが終了する前に、レイド側のコートに触れたアンティはアウトが宣告され

る。更に相手チームは得点を重ねることが出来る。

14. 「No.13」の規則に違反してアウトになったアンティが、レイダーを捕らえたり、レイダーを捕らえる手助けをした場合には、レイダーはノットアウトが宣告される。更にレイダーのコートに触れたアンティはアウトが宣告される。
15. もしレイダーが、自陣から何か指示を受けた場合には、アンパイアーや主審は警告を出し、相手チームにテクニカルポイント1点を与える。
16. レイダー又はアンティは、故意に手足や体躯を用いて掴むことはできない。規則に違反選手は、アウトが宣告される。もし、レイダーが手足や体躯以外のところを掴まれた場合には、アンパイアー又は主審がレイダー「ノットアウト」の宣告をする。
★注：もし、レイダーが髪の毛やユニホームなどを掴まれた場合には、「ノットアウト」が宣告される。更に、No.16の規則に違反したアンティは、アウトが宣告される。

試合規則・Rules of Matches

01) チーム・Team：

1チームは6人の選手で構成される。4人の選手がコートに入り競技をする。残りの2人が交代選手である。

02) 試合時間・Duration of time：

試合時間は、男子、女子、及びジュニア男女ともに、前半後半15分である。前半終了後は、5分間の休憩時間がある。

★注：試合の前半後半における最後のレイドになる時は、試合時間の15分が過ぎても、そのレイドが終了した時点で試合終了をしなければならない。したがって、レイド中に主審は試合終了の笛を吹かない。

03) 競技の方法・System of Play：

ビーチカバディでは、コートアウトとコートへの復帰のルールを適用していない。したがって、得点のみが計上されるだけである。

04) 生産的レイド（得点を生み出すレイド）・Productive Raid

全てのレイドでは、生産的なレイド（得点を生み出す）でなければならない。生産的レイドとは、得点をしたり、テクニカルポイントを取ったり、自分がコートアウトになったり、レイダーが捕まえられたりすることによる得点である。アンティがレイダーをアウトにした場合には、その時点でレイドが終了したといえる。もしレイダーが、得点すること無しに自陣戻るような場合には、相手チームはテクニカルポイント1点を獲得できる。

05) タイムアウト・Time out：

- a) 各チームは、前半後半に、主審の許可を得て3回の30秒のタイムアウトを取ることができる。タイムアウトは、キャプテン、コーチまたは競技している選手により願い出ることが出来る。
- b) タイムアウト中の両チームの選手は、コートを離れてはならない。この規則に違反した場合には、テクニカルポイント1点が相手側チームに与えられる。
- c) 競技中の選手の怪我、部外者による妨害、ラインの整備や不測の事態の場合には、主審又はアンパイアーがオフィシャル・タイムアウト（任務上のタイムアウト）を取ること

が出来る。タイムアウトは、試合時間に加算され行われる。

06) 交代選手・Substitution :

- a) 2名の控え選手は、タイムアウトや自陣のレイド中に、主審の許可を得て交代することが出来る。
- b) 一度交代した選手は、再び交代することが出来る。
- c) もし選手が試合出場停止や資格剥奪を受けた場合には、交代選手として認められない。その場合チームは少ない人数で競技をしなければならない。

07) 結果・Result :

試合終了した時点で、最も高得点を得たチームが勝者であると宣言される。

08) ノックアウト（トーナメント）方式の同点の場合・Tie in Knock Out :

ノックアウト方式において同点の場合には、試合は以下の基準で決められる。

1. 両チームは、共に4人の選手がコートに入る。
2. 両チームは別々の3人のレイダーのゼッケン番号をレイド順に主審に告げる。選手交代は、4人の選手以外からは認められていない。
3. 両チームは共に申告した別々の3人の選手が交互にレイドを行う。
4. 最初のレイダーは、前半試合開始時のコイントスで勝ったチームが行う。
5. 既に3人のレイダーが決められているが、レイド前に怪我などをした場合には、4人コートに入っている残りの一人の選手をレイダーとして起用できる。
6. 3人がレイドを行った後でも、同点の場合には、“ゴールデンレイド・Golden Raid”の規則により勝敗を決めることが出来る。

★注意・N.B. : もし同点決戦中に、選手が一時退場や試合からの退場を受けた場合、そのチームは少ない人数で競技をしなければならない。

❖ ゴールデンレイド・Golden Raid :

◆ 3人のレイドが終了した時点で両チームとも同点の場合には、新たにコイントスを行い、トスに勝ったチームがレイドを行うことが出来る。即ちこれがゴールデンレイドである。

◆ ゴールデンレイドを行った後でも同点の場合には、相手チームにもゴールデンレイドが与えられる。

◆ ゴールデンレイドにおいては、最初に得点を取ったチームが勝者として宣言される。

09) リーグ戦方式・League System :

リーグ戦においては、試合に勝ったチームが、勝ち点2点、負けたチームが0点、引き分けの場合は、両チームに1点ずつが与えられる。

❖ リーグポイントが同点の場合・Tie in League points :

リーグ戦における勝ち点が同点の場合の、その組の優勝と準優勝は、以下の「得失点」で決定される。「得失点」の計算は次のように行う。

- a) 得点がリーグ得点の25%未満のチームは、計算の対象とならない。
- b) 順位を決定するには、同点チームの「得失点」と、リーグ得点の25%以上を獲得しているチームとを比較して、その差を計算する。
- c) 「得失点」差が最も大きいチームがその組の優勝者となる。
- d) 「得失点」差でも同点となる場合には、次に「得点」のみを見る。

- e) それでも同点となる場合には、同点チーム同士の対戦結果を見る。
 - f) それでも同点となる場合には、25%ルールを適用せずに得点を見る。
 - g) それでも同点の場合には、コインを投げて優勝、準優勝を決定する。
- ★注意・Note：召集の遅刻、召集欠席、又はその他の既定上の問題が生じた場合には、主審はそのチームの対戦チームを不戦勝とする。召集欠席となったチームは競技から除外され、そのチームの得点は同点決定の計算には含まれない。試合を棄権したチームについても同様のルールが適用される。
- 10) 採光不足、激しい雨や不測の事態の場合には、試合を終了できない場合には、次回に再試合をすることが出来る。再試合の場合には、チームの布陣は、同じ選手でなくてもよい。
 - 11) 試合の一時的な中止の場合には、それまでの得点と残り時間を引き継いだ上で、同じ回の中で試合を続行する。一時中断の際は、選手は主審の許可なくコートを離れることは出来ない。これに違反した場合には、相手チームにテクニカルポイント1点が与えられる。
 - 12) 選手は、爪を短く切り、如何なる装飾品も身につけることを禁じられている。
 - 13) 全選手は、Tシャツの胸に少なくとも4インチ(10.2cm)の明瞭な番号と背中に6インチ(15.24cm)の大きさの番号をつけなければならない。チームはユニホームを統一しなければならない。(服装規定の遵守は義務化されている)。
 - 14) 選手は、油や如何なる薬物類等を体に塗布してはならない。

審判員・Technical Officials

アジアアマチュアカバディ連盟の公認審判員は、審判任務を遂行するために、いつでも以下の審判業務に必要な品目を携行することが義務である。

- ❖電子ストップウォッチ。
 - ❖黒のズボン、スカイブルーの襟のある半袖シャツ、白の運動靴と白のソックス。
 - ❖笛。
 - ❖警告提示用の様のカード。
 - ❖ペン。
 - ❖AAKF 最新版の規則書。
- 01) 審判員は、1名の主審、2名のアンパイアー、1名のスコアラー、そして1名のテーブル審判員。
 - 02) 競技におけるアンパイアーの決定は、通常最終である。しかし、特別な場合、又は、2名のアンパイアーの判定に食い違いが生じた場合には、主審が最終の最善の決定を行う。
 - 03) 粗野な違反と反則・Gross violation & Foul：
主審とアンパイアーは、以下の重大な違反と反則に抵触する選手やチームに対して、試合出場停止などの警告を発する権限をもっている。
 - a) 審判の判定に対して、執拗に申し立てるとき。
 - b) 審判員に著しい侮蔑的な言動を取ったり、判定に影響を及ぼすような行動を取るとき。
 - c) レイダーやアンティが、審判の判定を促すように指で要求する場合。
 - d) レイダーの口や喉を塞いだりして、息を止めるような行為をしたとき。
 - e) 体の怪我を招くような激しい強いタックルなどを行ったとき。

- f) レイド開始に、5秒以上もかかるようなとき。
 - g) レイダーを捕らえるために、両足を用いての蟹バサミなどを行ったとき。
 - h) コーチや選手が外から選手に対して、コーチングなどをしたとき。
 - i) レイド権の順番を守らせること。
- 04) 主審とアンパイアーは、警告、一時的な出場停止、試合出場停止、更に選手、コーチ、監督のトーナメントからの剥奪など、カードを用いて執行できる。
- a) グリーンカード・Green Card (青色カード)・Warning・警告：
グリーンカード・警告が選手、コーチ、監督、チームにそれぞれ2度出されると、次は即イエローカードになるものである。
 - b) イエローカード・Yellow Card (黄色カード)・2分間の一時的退場：
イエローカードは、2分間の一時的退場である。もしイエローカードが選手、コーチ、監督、チームにそれぞれ2度出された場合には、即レッドカード・退場になる。
 - c) レッドカード・Red Card (赤色カード)・試合退場・トーナメントからの除名：
レッドカードは、試合からの退場、又はトーナメントからの除名になる。
- 05) 主審の任務・Duties of Referee：
1. 主審は、トスを行う。
 2. 主審は、試合開始をする。
 3. 主審は、交代選手と再出場選手の発表をする。
 4. 主審は試合全体を統括し、進行をする。
 5. テーブル審判員の協力を得て、タイムアウト、タイムアウト後の試合開始、試合終了の宣言などをおこなう。
 6. 後半戦試合終了5分前には、“ラスト5分・ラスト・ファイブ・ミニッツ”の宣言を行い、次の各1分ごとに大きな声で時間を発表する（4分-3分-2分-1分と）。
- 06) アンパイアーの任務・Duties of Umpire：
- アンパイアーは、試合の審判業務に専念し、試合終了まで規則にしたがって判定を下す。
- 07) スコアラーの任務・Duties of Scorer：
- a) スコアシートの記載を完成させ、主審の許可を得て各前半後半と試合終了後の得点を発表する。
 - b) 試合開始時のトスに勝ったチームを記載する。
 - c) 両チームの選手の全得点は、両チームのランニングスコアシートの数字に (/) 線を記入する。
 - d) チームの最初の得点は、ランニングスコアシートの数字に□で囲い、記録する。
 - e) 主審やアンパイアーによるテクニカルポイントは、ランニングスコアシートの数字を○で囲い記録する。
 - f) チームのタイムアウトは、チームのタイムアウト欄に、“T”を書き入れる。
 - g) 試合開始、前半後半の終了時間、審判により取られた任務上のタイムアウト、交代選手の記録などを記録する。
 - h) 両チームの全ての記録を完成させて、アンパイアーと主審の署名を貰う。
- 08) テーブル審判員の義務・Duties of Table official：
- a) 試合開始と終了時間を記録し、主審を補佐する。

- b) 前半、タイムアウト、タイムアウト後の試合開始をアナウンスし、主審を補佐する。
 - c) 後半の試合終了5分前と次の各1分ごとの時間（4分、3分、2分、1分）を宣言し、主審を補佐する。
 - d) 交代選手と再出場選手に関して主審を補佐する。
- 09) 試合の陪審員・Match Jury：

各試合には、アジアアマチュアカバディ連盟のテクニカルディレガート Technical Delegate (TD) 技術代表に指名された3人の陪審員が任に当たる。陪審員は、その試合をする当該国から選んではならない。

なお、本稿はインドにおける「平成19年度二松学舎大学長期海外特別研究員」の成果の一つとして執筆したものである。ここに学校法人二松学舎並びに大学関係各位に深く感謝の意を表する次第である。

注

1. 地球の歩き方：インド'08～'09、ダイヤモンド・ビッグ社、2008。P.417-423.
2. フリー百科辞典「ウィキペディア (Wikipedia)」：http://ja.wikipedia.org/wiki/ガンディナガル。
3. Annual Report 2004-2005, Sports Authority of India, Netaji Subhash Western Centre, Sector_15, Gandhinagar.
4. Authority of India (SAI)、国立スポーツセンターは、インドのスポーツ科学やコーチングなどの研究と同時に、青少年に対して競技性の高い人材育成と強化をしようという狙いを持って、1984年に組織された。インド全国の6地区にある（バンガロール・Bangalore、ガンディナガル・Gandhinagar、コルカタ・Kolkata、ソネパット Sonepat、デリー・Delhi、インパール・Imphal、さらに2つの附属センターが、グワハチ・Guwahati、アウランガバド・Aurangabad）にある。このスポーツセンターは、インド北西部のパンジャブ州 (Punjab) パティアラ・Patialaにある Netaji Subhas National Institute of Sports・NSNIS という国立インドスポーツ科学の研究機関である総本山が管轄している。
5. Authority of India : http://en.wikipedia.org/wiki/sports_Authority_of India
6. Doronacharya Award: インドにおけるスポーツ指導者に贈られる最高の荣誉であり、Mr. Prasad Rao はカバディ部門で初めて、2003年8月28日に受賞をした（写真1）。
7. グジャラート州アーマダバード「Time s of India」の記者である Mr. Peter Pears は、2003年9月3日付けの新聞で、ドロナチャルヤの受賞を「This award is a tribute to Gujarat・この賞はグジャラートへの贈り物」という大見出しで、ラオ氏の業績などを踏まえて賞賛した記事を写真入で大きく報じている。
8. 地球の歩き方：'08～'09、ダイヤモンド・ビッグ社、2008。P.417
9. グジャラート州、一酒類解禁の道一：http://www.indo.to/index.php?itemid=509
10. 2007年4月8日(日)付けのアーマダバードのディビヤ・バスカル、Divya Bhaskar 紙（グジャラート語新聞）で「大学教授の金子茂がカバディ研究のためにグジャラート州ガンディナガルを訪問した・・・」ということが、Mr. Rao と妻の和子との三人の写真入りで掲載された（写真6）。
11. 2007年5月16日(水)のアーマダバードの英字新聞「The times of India」は、写真入で「Japanese here to compile book on kabaddi」の見出しと、四角でかこった中に、次のインタビュー記事「We need to learn the advanced techniques of kabaddi and so I am spending four months in India」で報じてくれた（写真6）。
12. 2007年5月13日(日)のムンバイの Indian express 紙は、「Waiting to Exhale」の見出しで、Ms. Shivani Naik 記者とのインタビュー記事などを写真入でスポーツ欄に掲載してくれた。http://www.indianexpress.com/news/waiting-To-Exhale/30759/
13. 2007年4月11日から12日、インド国立スポーツセンター主催の Doping 研修会終了後の挨拶写真がセンター玄関の掲示板に掲示された（写真7）。
14. 筆者が頂いたドーピング研修の修了証には、“This is to certify that Professor Shigeru Kaneko has attended the Initiate Training course on Anti-Doping Control conducted from 11th to 12th April, 2007

- held at sports Authority of India, Netaji Subhas Western Centre, Gandhinagar” とあり、Dr. Ashok Ahuja (スポーツ医学者)、Dr. Roquee Dias (SAI センター長) と Dr. C.S.Jayaprakash (スポーツ医学者) の署名がある。
15. Farasat Hussain: Vice president Indian Association of Sports medicine, Kabaddi-An Exciting Game, National Beach Kabaddi Championship-2007、パンフレット巻頭挨拶。
 16. S.K.Negi: IAS Commissioner Magadh Division Gaya, Bihar, Massage, National Beach Kabaddi Championship-2007、パンフレット巻頭挨拶。
 17. Mr. Prasad Rao の Beach kabaddi についての E-mail (2007 年 11 月 14 日受信)。
 18. Mr. J.S.Gehlot (アジア連盟会長) からの 1st Asian Beach kabaddi Games in Bali, Indonesia への参加要請文 (2008 年 1 月 2 日受信)。
 19. Mr. Prasad Rao の e-mail: 1st Beach Games in Bali, Indonesia への参加要請文 (2008 年 4 月 13 日受信)。Beach Kabaddi-Introduction: From Prasad Rao - Most Urgent, TD Asian Amateur Kabaddi Federation, April 13, 2008. (参加要請 - 人数 6 人で参加できる) ・ビーチカバディについての紹介。
 20. Mr. Prasad Rao の e-mail: 1st Beach Games in Bali への参加要請文 (2008 年 4 月 24 日受信)。
 21. 2007 年 6 月 3 日(日)付けのヒンダスタン・タイムズ Hindustan Times, Patna は、インドビーチカバディ大会始まるの見出しで、日本からアジア連盟の役員と同道して Mr. Shigeru Kaneko が国際観戦者として開会式に臨んだと報じてくれた。 <http://www.hindustantimes.com>
 22. 筆者は、ビーチカバディ・2nd National Beach kabaddi Championship-2007, (Men and Women), Organized by: BIHAR STATE KABADDI ASSOCIATION INDIA. UNDER THE AUSPIES OF AMATERUR KABADDI FEDERATION OF INDIA に招待され、「参加証明書・Participation Certificate」を頂いた。証明書には、“This certificate is awarded to Mr. Shigeru Kaneko of Japan as Official on the 2nd National Beach kabaddi Championship for men and Women held at Bodh Gaya, Bihar from 2nd to 5th June 2007.” と記載されており、インド連盟会長、事務総長、ビハール州カバディ協会会長の署名がされている。
 23. 1st Beach Games in Bali, Indonesia 2008, Olympic Council of Asia: <http://www.bali2008.com/sport-disiciplines-html>
 24. Asian Beach Games-Medal by country (by competition): <http://results.bali2008.com/show-medals.asp?lang=en-gb>
 25. Closing Ceremony Celebration Marks End to Historic Games: <http://www.bali2008.com/index.php?id=734>
 26. プラサド・ラオ著: 金子茂訳、Modern coaching in kabaddi: カバディールールと戦術一、玉川大学出版部、2000 年 9 月、P.16-17.
 27. Arun Kumar Ojha: Kabaddi, National Beach kabaddi Championship-2007 のパンフレット P15, Organized by District Admn., Gaya & Distt.Kabaddi Asso., Gaya, P15
 28. Rakesh Ranjan: Kabaddi-Game for all, National Beach Kabaddi Championship-2007 のパンフレット、Organized by District Admn, Gaya & Distt.Kabaddi Championship-2007、P.21